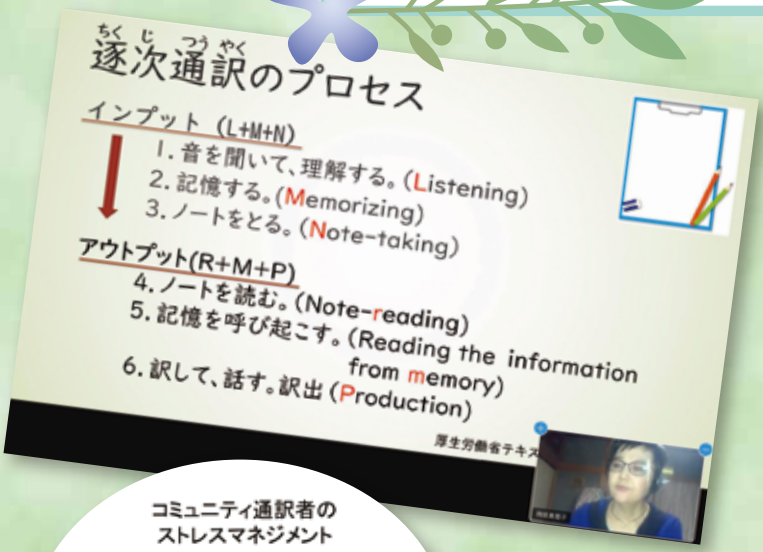
チェルノブイリ
救援・中部

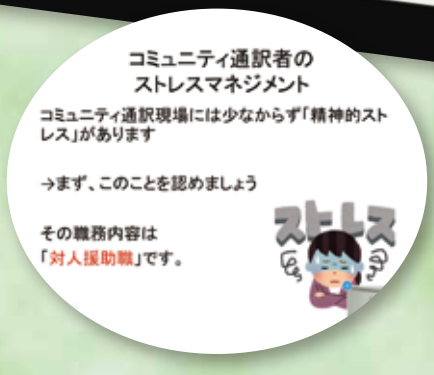
真如苑・名古屋NGOセンター
協働事業

東海地域NGO 活動助成金 報告書

2020年度

泉京・垂井





外国人
ヘルプライン
東海

CONTENTS

主催団体からのメッセージ …… 2
宗教法人 真如苑
特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

助成団体報告書

1. 特定非営利活動法人　チェルノブイリ救援・中部 …… 3・4
菜種油「油菜ちゃん」を使ったワークショップ（連続企画）
助成金額 20万円

2. 特定非営利活動法人 泉京・垂井 …… 5・6
「ビック・テント・アプローチ」によるフェアトレードの地域化事業
助成金額 20万円

3. 外国人ヘルプライン東海 …… 7・8
コミュニティ通訳者実践講座
助成金額 20万円

助成金概要 …… 9

以下の助成事業は2020年度の実施を見送りました。
改めて内容を検討し2021年度に同様または代替の事業を実施する予定です。
2021年度報告書で結果を報告致します。

・特定非営利活動法人HIROYA基金
第6回ガーナにAEDを贈りCPRを伝える　助成金額　20万円

・セイブ・イラク・チルドレン名古屋
イラク人医師の愛知県内の病院における医療研修　助成金額　20万円

2020年度　東海地域NGO活動助成金報告書

主催団体からのメッセージ

（特活）名古屋NGOセンター

「東海地域NGO活動助成金」は、東海地域を拠点に活動するNGO団体の活動を支援し、その発展に寄与することを目的に、宗教法人真如苑と名古屋NGOセンターの協同事業として2009年度より始まりました。ここに第12回目である2020年度の助成事業の報告書をお届けいたします。

当年度は10団体からの応募をいただきました。外部有識者を含めた選考委員会による厳選な審査の結果、5団体が助成を受けました。残念ながら、新型コロナウィルス感染拡大の影響により、事業の実施を見送った団体が2団体ありました。2団体との協議の結果、改めて事業内容を検討し2021年度に実施することとなりました。また、事業を実施できた団体も、対面で予定していたセミナーやイベントをオンラインで開催するなど、感染対策を行いながら当初の事業計画を一部変更して実施しました。各団体の努力に感謝申し上げます。

真如苑の関係者の皆様のご協力に、改めてこの場でお礼を申し上げます。今後とも東海地域の中小規模NGOの成長にお力添えをいただきながら、新しい価値観や社会の在り方を求めて活動し、連携できることを願っています。

なお現在、2021年度（第13回）の助成事業が公募によって決定しております。

真如苑（しんにょえん）について

真如苑は開祖・伊藤真乗（しんじょう）（1906～1989）が昭和11（1936）年に開いた仏教教団です。開祖は真言宗醍醐派総本山醍醐寺で得度し、伝統仏教の法流を悉く受け継ぎました。その後、仏典を研鑽の末、仏遺言の教え・大般涅槃経（だいはつねはんぎょう）を中心とする真如苑を設立。現在は、伊藤真聰（しんそう）が真如苑の苑主として教団を代表しています。真如苑は、大般涅槃経に説かれる大乗利他の精神を、日々の社会生活に活かす実践を重んじます。真如苑の社会貢献活動は、開祖が願って止まなかった人類の至福と世界平和を現代にあらわしていく営みのひとつです。

特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

菜種油「油菜ちゃん」を使った ワークショップ（連続企画）

福島県南相馬市での農地再生事業「菜の花プロジェクト」により生産、製造された菜種油「油菜ちゃん」の理解・広報を図る一環として、「油菜ちゃん」を使ったワークショップを開催する。市民が日常生活の中でできる手作り石けんやスキンクリーム等のツールと機会を提供するワークショップを、各地で連続して開催し、菜種油「油菜ちゃん」の利用・拡販を進める。

事業の背景と目的

南相馬市で生産、製造する菜種油「油菜ちゃん」は、放射能を含まないことが測定結果から証明済だが、「福島産」というレッテルを張られ風評で販売が伸びない。また、海外から輸入される菜種油のような遺伝子組み換えの心配がない、有機無農薬で安全な国産菜種油であるが、大手の流通商品のなかで知名度も低く、流通ルートもまだ確立できない。そのため他の製品よりコストが割高となり、一般への普及に苦戦をしている状況にある。福島から離れた自分達の身近な地域でもその理解と支援を得るためにより一層の広報が必要である。そのため、市民参加型のワークショップや地域でのマルシェに出店し、その説明と理解を図りながら普及、拡販を進めていく必要がある。現地での継続した菜種栽培が可能になり、また栽培農地の拡大が進められるよう願い、さらに福島の農地・農業再生への道が拓かれることを最終目的と考える。

事業の内容

参加型ワークショップを2か月に1回開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、計画通りに進められなくなり、感染予防対策を取りながらできる範囲での実施となった。

- 4月5日(日)、「油菜ちゃん」の廃食油を利用して、講師の解説を聞きながら手作り石けんの基本を学び、石けんづくり（固形せっけん、シャンプーなど）を体験。参加者：10名。
- 製造工場（神奈川県・ラッシュジャパン）の見学会を予定していたが、県をまたいだ移動が困難となり、工場見学に替えて石けんやバームづくり等に関する書籍・資料を購入して、技術的な知識を得ることとした。（『油脂の科学』、『新化粧品学』、『メディカルハーブ事典』他）
- 10月18日(日)、菜種油「油菜ちゃん」の新油を使って、オーガニックの天然ハーブを使った化学添加物のないハンドクリーム作り。参加者：8名。
- 10月24日(土)、ワークショップで出来上がった製品を、地域のマルシェで菜種油の説明しながら販売した（毎月開催される手作り品マルシェ「かんのんひろば」（名古屋市南区笠寺観音）には可能な限り出店し、広報・消費拡大の機会を持った）。参加者：延べ 12名。この他、11月、12月、3月に出店。
- 1月21日(土)に、福島県南相馬市小高区の「商工会女性部」「希来基金」のイベントとコラボし、共催で「参加型のワークショップ」を開催。地域の親子や「商工会女性部」メンバー等の参加があった。スキンクリーム作り、ハーブによる癒しにより、放射能被害の心配や地域再生に努力する福島の被災者の心身の癒し、精神的支援として行った。参加者：8名
- 3月29日(日)、長野県でのワークショップはコロナ感染拡大のため、伊那の市民グループに材料を手配、マニュアル等を伝えて自主開催となった。参加者：7名

事業実施団体の概要

団体名：**特定非営利活動法人　チェルノブイリ救援・中部**

活動内容：ウクライナ及び福島の原発事故被災者への支援を行う。チェルノブイリの被災者団体(4団体)、地区病院への医療支援。福島・南相馬市他で空間・土壌等の放射能測定し市民に情報提供。菜種栽培による農業再生支援。被災者の精神的支援。

住所：〒460-0012　名古屋市中区千代田5-11-33 ST・PLAZA・TSURUMAI 本館5-B
TEL・FAX：052-228-6813
e-mail：chqchubu@muc.biglobe.ne.jp
URL：http://www.chernobyl-chubu-jp.org

活動の成果と課題

「油菜ちゃん」を使用することで、輸入の菜種油のような遺伝子組み換えの心配がない国産菜種油の良さをアピールできた。さらに参加者が、手作りの石けん等で添加物のない身体に良い製品であることを、ワークショップ体験を通して知ることができた。これらの製品を自身で活用するだけでなく、団体としても地域のマルシェ等で菜種油の良さや手作りについて説明しながら販売することができた。また「油菜ちゃん」と天然ハーブを使ったハンドクリームが、この時期のコロナ対策の手指消毒の手荒れにも有効なこと、市販のものとは違った良さを広報できるようになった。これらの製品が日常生活に浸透していけば、「油菜ちゃん」の拡販と同時に、「菜の花プロジェクト」による菜種栽培の継続と福島への理解・支援につながる効果がある。またハーブによる癒しは、放射能被害の心配や地域再生に努力する福島の被災者の心身の疲れを癒し、精神的支援として有効な一つの手段となることがわかった。

しかしながらコロナ禍の厳しい現状で、思うように活動できなかったことは残念であり、「油菜ちゃん」についてさらに広く広報し、一層の拡販をしていかねば福島の復興へは程遠いところである。

「油菜ちゃん」手作り石けんワークショップ

「油菜ちゃん」でスキンクリーム作り(伊那)

小高商工会女性部でワークショップ

マルシェで「油菜ちゃん」ショップ開店中

事業実施団体のひとこと

コロナ禍で予定通りの活動ができなかったことは大変残念であるが、できることを努力して行っていく。

「ビッグ・テント・アプローチ」による フェアトレードの地域化事業

フェアトレードをより身近に感じられるイベント等の実施、地域から発信するフェアトレード製品の開発。多様な市民がそれぞれの多様な活動をもって、大きなテントの下に集まり、フェアトレードタウン運動を推進していこうという「ビッグ・テント・アプローチ」による事業展開と多様な地域組織との協働を通して、「誰ひとり取り残さない」運動としてのフェアトレードを、垂井町を中心とした西濃地域でより深く浸透させる取り組み。

事業の背景と目的

啓発イベント「フェアトレードデイ垂井」をはじめ継続した活動により、垂井町において、フェアトレードと地産地消をまちづくりの根幹に置いたフェアトレードタウン化の動きは前進している。地域住民や行政における理解をもう一歩進め、活動をさらに発展させるため、授産施設等と協働して当事業を実施することで、フェアトレードをより身近に感じ、さらにはフェアトレード運動がSDGsの掲げる「誰ひとり取り残さない」ことの実感につながり、垂井町がフェアトレードタウン化をめざす意義の理解がさらに進むよう事業を実施した。

障がい者支援を行う地域の授産施設等と協働し「ビッグ・テント・アプローチ」による、フェアトレードやSDGsの地域化を行うことで、垂井町内および西濃地域でフェアトレード運動をより深く浸透させ、垂井町のフェアトレードタウン化を前進させることを目的とした。また、継続した活動を展開していくための活動資金を集めることも目的とした。

事業の内容

以下の事業を、フェアトレードタウン垂井推進委員会、フェアトレードデイ垂井（FTD垂井）実行委員会、垂井町社会福祉協議会事業所「けやきの家」などの各種地域組織と協力しながら実施した。

■啓発イベントの実施　2021年3月21日14:00～16:30

精神科病棟の長期入院を扱った映画『オキナワへいこう』の上映および「フェアトレード×障がい者×地域」をテーマとした座談会をオンライン配信した。

・対談ゲスト：大西暢夫氏（写真家・映画監督）、髙橋純子氏（雑貨・flamant）

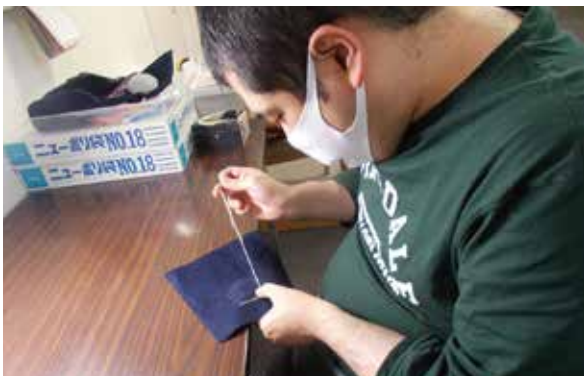
■フェアトレード連続講座の実施　2020年9月～11月

垂井町および西濃地域でのフェアトレード活動を発信する、3回の連続オンライン座談会を開催した。

・第1回「フェアトレードことはじめ～いまこそ考えようフェアトレード～」9月20日
ゲスト：髙橋純子氏、伏屋美希氏（FTD垂井実行委員）、神田浩史氏（弊法人副代表理事）

・第2回「フェアトレードとSDGs～生産現場から～」10月24日
ゲスト：池宮聖実氏（かご屋moily）、伏屋美希氏、河合良太氏（FTD垂井実行委員）

・第3回「地域での取り組みを知ろう」11月28日
ゲスト：吉田英治氏（nekko farm）、牧村昌幸氏（揖斐菓匠庵みわ屋）、伏屋美希氏



フェアトレードの糸を使った刺し子作業風景

事業実施団体の概要

団体名：特定非営利活動法人　泉京・垂井

活動内容：垂井町に暮らす住民誰もが、垂井町のまちづくりに自ら参画し、行政、事業者・企業などと協働してまちづくりに関する事業を行い、『より幸福度の高いまち・垂井』を実現することを目指しています。

住所：〒503-2124 岐阜県不破郡垂井町宮代1794−1
TEL：0584-23-3010　FAX：0584-84-8767
e-mail：info@sento-tarui.org
URL：https://sento-tarui.jimdofree.com/

■フェアトレード製品の開発・販売　2020年5月〜2021年3月

垂井町社会福祉協議会の事業所「けやきの家」と協働し、フェアトレード材（糸）を用いた製品（刺し子製品）の開発を行った。フェアトレードと地産・垂井町らしさをコンセプトにし、刺し子のデザインは垂井町在住のデザイナーに依頼した。フェアトレードの糸を使い、「けやきの家」利用者による刺し子、製品化し見本を製作した。協働相手の見直しや試作製品の変更（当初は菓子を予定）などがあり、見本の製作までとなったが、21年度以降も継続して開発を進め、地域発のフェアトレード製品として商品化をめざすことを、関係者らと確認した。

完成した刺し子製品の見本

活動の成果と課題

想定以上にコロナ禍の影響を受けたが、できること・できる方法を模索して実施することができた。オンライン配信をすることで、海外を含め広域の市民に対して、地域でのフェアトレードの取組みを伝えることができた。

また、見本の製作までにとどまったが、「けやきの家」との協働は、垂井町におけるフェアトレードタウン化運動の厚みを増し、これまでとは異なる地域住民の層へも、フェアトレードを身近に感じられるきっかけをつくることができた。協働による事業を継続して実施していくことで、より多くの地域住民に対し、また他地域の市民に対しても地域でのフェアトレード実践、SDGs実践の事例として発信することができると考えている。

課題としては、オンラインによるイベント実施とその広報は試行錯誤の連続であり、計画通りの参加者数を集めることができなかった。イベントの参加費収入を継続した事業展開に活用していく計画だったが、資金調達については継続した課題として残っている。

オンライン座談会を事務所より配信

実施事業での現地もしくは参加者の声

映画を通して、フェアトレードを含めて、自由で公平な社会・世界の実現には、特定の分野やそこに関わる人たちだけでなく、社会全体の意識としくみをフェアでインクルーシブなものに変える必要があることが、改めてよくわかりました。（中略）地域でのフェアトレードの推進は、それに貢献できると思います。（オンライン上映会参加者）

事業実施団体のひとこと

助成金を活用して、これまで取り組んできた地域でのフェアトレード推進の運動をさらに深めることができました。また、助成を受けたことで、製品開発といった中期的な取り組みや、オンライン対応などへも挑戦をすることができました。ありがとうございました。

外国人ヘルプライン東海

コミュニティ通訳者実践講座

コミュニティ通訳とは日本語を母語としない人々が、日本で生活するにあたって困らないよう、また、必要な行政、司法、医療などのサービスを受けることができるよう、言葉を使ってコミュニケーションの橋渡しをする人たちのことであり、主に自治体や国際交流協会、NPO などで活動している。本事業は、行政機関や国際交流協会で貼ら宅通訳者に加え、当団体のコミュニティ通訳者を対象にスキルアップのための研修を実施するものである。

事業の背景と目的

東海地域で暮らす外国人住民は増えてきており（例えば、愛知県は2018年12 月から2019年6月11,903人増加）、相談員や通訳者の設置など、多言語対応を強化する自治体も増えてきた。しかし、コミュニティ通訳技術に関わる研修の機会は不足しており、とくに数年程度活動し、実績のある通訳者には、スキルアップの機会が必要である。

また、コミュニティ通訳は、生活に関わる場、困りごとをかかえた時の通訳も多く、ストレスを抱えやすく、長く続かずバーンアウトしてしまう人もいる。通訳の仕事や活動の振り返りを行い、ストレスを軽減する場も必要と考え、当事業を企画した。

事業の内容

<実施概要>

実施日時：2021年1月23日

場所：名古屋NGOセンターから発信

＊コロナ感染拡大防止のため当初の予定を変更し、オンライン開催とした。

<プログラム>

13:30-13:45　団体紹介、講座について

13:45-14:25　ノートテイキング（メモ取り）の練習
通訳の際メモを取るコツを講義形式で伝えたあと、実際にメモをとってもらう練習するワークショップをおこなった。

14:25-14:40　休憩

14:40-15:30　オンライン・ワークショップ「通訳をしていて困ったことは?」
zoomのブレイクアウトルーム機能を使い、参加者に自由に話し合ってもらった。

15:30-16:00　通訳者の心と体の健康のために「メンタルヘルスについて」
メンタルヘルスの概念について伝え、通訳者もストレスを抱えることを、それを自覚することが重要であると伝えた。

16:00-16:20　自分の通訳をふりかえってみよう!
"Can do statement"を使って当団体が作成した通訳活動に関わる評価シートを、参加者に記入してもらい、普段の通訳の活動・業務を振り返る場とした。

16:20-16:30　あいさつ、ふりかえり

<ファシリテーター>

後藤美樹（当団体代表）

村松紀子さん（医療通訳研究会/MEDINT代表）

岡部真理子さん（あいち医療通訳システム英語通訳者）

当団体の登録通訳者には、通訳謝金と同じ金額の日当（5000円）を支払った。当団体はこれまで通訳者を対象とした研修を開催していたが、無料あるいは資料代を負担の上参加してもらっていた。研修の参加自体が、仕事あるいは活動の一環であるという認識は、以前からあったが、財政的な理由で謝金を支払うことができなかった。今回真如苑の助成金で実施できたことで、実現可能になった。

事業実施団体の概要

団体名：外国人ヘルプライン東海

活動内容：外国人住民のみなさんの困り事の相談にのっています。通訳派遣や翻訳も実施しています。相談から見えた課題を発信し、仕組み変えていき、多文化共生社会を目指します。

住所：〒460-0004　愛知県名古屋市中区新栄町2-3　YWCAビル7F
TEL：090-3968-5971
e-mail：fhelpline.info@gmail.com
URL：https://fhelplineinfo.wixsite.com/website-1

活動の成果と課題

・当日の参加人数は23人で、通訳者の言語は、英語、フィリピン語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語など。参加者のうち当団体の通訳者は10人、市役所や国際交流協会などで通訳を行っている方の参加も半数程度占めた。地域でこうした研修が必要なことを実感する機会となった。

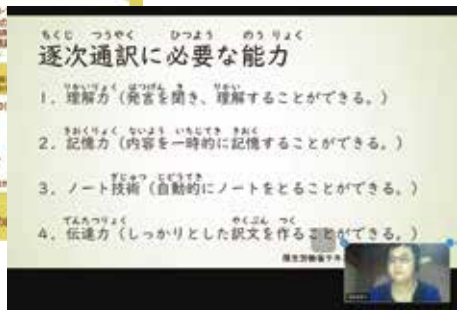
・当団体の通訳者、とくに同じ言語の通訳者が普段会うことがあまりないため、当団体通訳者が交流を深める場ともなった。

・今年度はzoom開催としたため、時間を短縮しプログラムを変更せざるを得なかった。とくに、メモ取りなど通訳技術に関わる実践の時間を減らさざるを得なかったことは非常に残念であった。今年度は社会情勢もみながら、オフライン開催を検討する。

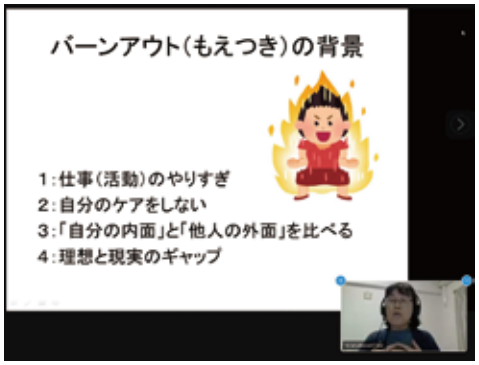
・参加者アンケートでは、概ね公表であったが、通訳者が悩み事を共有するワークショップの時間が短かった、もっと長くして欲しいという声もあった。

・今年度同じ内容で、真如苑からの助成金で実施することになっている。さらにニーズにあったものになるようプログラム開発をおこない、来年度以降には、行政の委託事業あるいは自治体そのものに実施してもらえるように、関係機関に働きかけを行いたい。

講座のチラシ



講義の様子



村松紀子先生の講演の様子

当日の事務局の様子

実施事業での現地もしくは参加者の声

・これからも役に立つと思います。ありがとうございます。

・「自己覚知」で、自分のことも客観的に見ることの大切さが再確認できました。

・ノートテイキングの技術が勉強になったので、練習して今後の翻訳に活かしたい。

また通訳時の心構え大事さも少しわかってきた。大変な通訳場面でも冷静に対応するためには普段から教養高める必要があると実感した。

・自分もこれまで何度か自覚なしにストレス状態に陥っていたことを知りました。

事業実施団体のひとこと

コロナ禍で当団体にも深刻な相談が増え、モヤモヤとしているときに、当団体やスタッフや行政機関などで活動している通訳者が集まって、思いを吐き出す良い機会ともなりました。コロナで実施が危ぶまれていましたが、あきらめず、ネットで開催して本当によかったです。

東海地域NGO活動助成金（名古屋NGOセンター・真如苑共催）公募要項

この助成金は、東海地域を拠点に活動するNGO団体の活動を支援し、その発展に寄与することを目的に、特定非営利活動法人名古屋NGOセンターと宗教法人真如苑の協働事業として2009年1月に設立されたものです。助成資金は真如苑からの寄付によるもので、名古屋NGOセンターはこの寄付が有効に生かされるよう、本要項にそって助成団体を公募します。

1. 対象団体

愛知、岐阜、三重、静岡県内に活動拠点があるNGO団体で、申請時において設立後3年以上経過し、継続的な活動実績がある団体。法人格の有無は問いませんが、民主的で開かれた組織運営がなされていること。応募は1団体につき1件のみとします。なお、前年度までに採択された団体または事業も応募することができますが、直近の3年間で複数回本助成金を受けている場合には、優先順位が低くなります。

2. 助成対象期間

(1) 2020年4月1日から2021年3月31日の間に実施する事業を対象とします。

(2) すでに実施中で2020年度も継続する事業や、2021年度以降も継続する事業も応募できます。この場合、上記(1)の期間中に実施される部分が助成の対象となります。

*事業の実施場所は国内、国外を問いません。2021年5月末までに事業実施報告書を提出できることが条件です。

3. 採択予定件数と助成金額

5～6件程度。1件あたり20万円以内、かつ対象事業経費の80%以内。助成総額100万円を上限に配分します。

4. 助成対象事業

名古屋NGOセンターのミッションと行動規範を定めた「ステファニ憲章*」の精神に合致していれば、特に分野は定めません。教育、保健、医療、福祉などの分野、職業訓練、技術移転、人づくりを通じた自立支援、災害復興、環境保全、多文化共生、その他の人道的活動や啓発活動など、国の内外を問わず様々な活動が対象となります。組織基盤の強化、専門スタッフの育成、広報ツールや一般向け教材の開発、活動の輪を広げることに結びつくようなチャリティ・イベントやファンド・レイジング事業も対象とします。

※ステファニ憲章については、
名古屋NGOセンターのホームページ「ミッションと道のり」
http://nangoc.org/about/mission/
からご覧いただけます。

5. 提出書類（郵送または直接持参してください）

(1) 助成申請書、事業計画書、収支予算書　各1部
(様式は名古屋NGOセンターのホームページ
http://www.nangoc.orgからダウンロードできます)

(2) 団体の定款（会則）、役員名簿　各5部

(3) 前年度の事業報告書および決算報告書（またはそれらに準じた資料）各5部

(4) 会報またはパンフレットなど活動内容がわかる資料3点×5部
(重要な箇所それぞれ数ページ程度をA4サイズでコピーしても結構です。この場合も資料3点（コピー）×5部を提出してください)

※(4)の資料がない場合は、A4用紙1枚程度で「団体の概要」をお書きください。

6. 応募受付期間

2019年12月24日（火）～2020年1月16日（木）必着
※年末年始の休業は12月28日（土）から1月6日（月）までです。

7. 応募書類提出先、問い合わせ先

〒460-0004　愛知県名古屋市中区新栄町2丁目3番地
YWCAビル7階
特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター事務局
（担当：村山）
TEL&FAX：052-228-8109　　e-mail: info@nangoc.org
（火～土曜日の13時から17時まで、祝日を除く）
※応募書類受領後、当該団体または担当者様に受領確認のメールを送ります。応募締切日より5日を過ぎても受領確認のメールが届かない場合は、上記事務局までお問合せ下さい。

8. 選考方法および結果通知

(1) 選考は、外部有識者等で構成される選考委員会により厳正に行われます。

(2) 第一次選考：申請書類に基づいて行い、2020年2月7日（金）までに結果を通知いたします。

(3) 一次選考通過団体を対象に、2020年2月29日（土）午後、ウィルあいち（3F会議室1）（1団体5分間程度のプレゼンの後、選考委員による7, 8分程度の質疑）。プレゼン（質疑対応含む）は基本的に1団体2名以内でお願いします。

(4) 最終結果は2020年3月10日（火）までに通知します。

(5) 必要な場合、追加資料のご提出などをお願いする場合があります。

(6) 選考過程の詳細や採否理由に関するお問い合わせにはお答えできません。

9. その他

(1) 最終選考（公開プレゼン）に進んだ団体には、2名以内かつ合計1万2千円以内で交通費を補助します。ただし、団体事務所の住所を基準に、公共交通機関で往復2,000円以上要する場合に限ります。

(2) 助成金の交付は2020年3月下旬までに行います。

(3) 虚偽の記載や資金の不適切な使用などが判明した場合は、助成金の全額または一部を返還していただく場合があります。

(4) 本助成を受けて実施する事業について、報告や広報媒体への掲載を行う際には「東海地域NGO活動助成金（名古屋NGOセンター・真如苑共催）」を受けた旨を明記してください。報道で取り上げられた場合は記事コピーやビデオ等を名古屋NGOセンターに提出してください。

以上

2020年度
東海地域NGO活動助成金　報告書

発　行　者：
宗教法人　真如苑
URL：http://www.shinnyo-en.or.jp

特定非営利活動法人　名古屋NGOセンター
〒460-0004
名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル7F
TEL&FAX：052-228-8109
E-Mail：info@nangoc.org
URL：http://www.nangoc.org

レイアウト：久 由紀枝

(特活)名古屋NGOセンターの紹介

名古屋NGOセンターは、貧困・紛争・環境破壊などの地球規模の課題を解決するために、市民が主体となり取り組む活動を支援しています。支援を通して、人権、平和、環境が守られる社会の創造をめざしています。

活動 7つの柱

1 ネットワーキング
NGOと人々、NGOと他セクター、NGOとNGOをつないでいます。

2 コンサルティング
NGOに関する相談、質問への対応を行っています。

3 情報収集・発信
地域のNGOの生きた情報を集めて人々に伝えています

4 調査・研究
地域や世界の動きをモニターし、発掘した情報を整理、分析してNGO活動に役立てる活動を行います。

5 政策提言
政治や行政の場に、弱い立場におかれている人々を始め一般の人々、NGOの声を届け、あらゆる人々の声が政策決定に活かされるよう政策提言活動を行います。

6 国際理解・開発教育
地球規模の課題と私たちの暮らしとの関係を学び、行動に起こすきっかけを作っています。

7 人材・活動育成
地域に眠る潜在的な力に働きかけ、NGO活動を生み出し、育んでいます。

42の加盟団体が世界中で活躍しています。

- 認定NPO法人　アイキャン
- 公益財団法人　アジア保健研修所(AHI)
- 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本“わや”グループ
- (特活)アーユス仏教国際協力ネットワーク・東海
- (特活)イカオ・アコ
- 公益財団法人 オイスカ中部日本研修センター
- オヴァ・ママの会
- オリーブジャパン国際開発協力協会
- GAIA(がいあ)の会
- (特活)キャンヘルプタイランド
- 国際相互理解を考える会
- (特活)沙漠緑化ナゴヤ
- (特活)タランガ・フレンドシップ・グループ
- (特活)地域国際活動研究センターCDIC
- (特活)チェルノブイリ救援・中部
- なごや自由学校
- 公益財団法人　名古屋YWCA
- 南遊の会
- ニカラグアの会
- (特活)NIED・国際理解教育センター
- ハンガーゼロ(一般財団法人 日本国際飢餓対策機構)
- 日本バングラデシュ友好協力会(JBCS)
- ハート・フォー・ザ・ワールド・ジャパン
- フィリピン人移住者センター(FMC)
- 不戦へのネットワーク
- 認定NPO法人　平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会　ピースあいち
- ペシャワール会名古屋
- 認定NPO法人　ホープ・インターナショナル開発機構
- 認定NPO法人　レスキューストックヤード
- 認定NPO法人　インド福祉村協会
- Cocoagora　ココアゴラ
- (特活)ボラみみより情報局
- (特活)泉京・垂井
- バングラデシュ保育園の会(B.N.S.A)
- (特活)DIFAR
- (特活)多文化共生リソースセンター東海
- ビニンブラザーホッド　トーカイジャパン
- (特活)まちづくりスポット
- (特活)ル・スリール・ジャポン
- 認定NPO法人　アジア車いす交流センター(WAFCA)
- 認定NPO法人　ムラのミライ
- 外国人ヘルプライン東海
- (特活)地域の未来・志援センター

※(特活)は、特定非営利活動法人の略です。